

## 趣意書

会員ひとりひとりが同じ方向を向き活動することで、組織活性化につながる商工会議所青年部理念「社会の永続」を宣言し浸透すべく、YEG活動における考え方を「思考の順序」として可視化しました。

### 《理念》社会の永続

「社会の永続」は、青年経済人として地域社会の課題解決や経済好循環創出に積極的に取り組むことで、現状維持ではなく、新たな経済活動と社会貢献の融合へと繋がり、持続可能な地域社会を構築し、次世代へ継ぎ紡いでいくという壮大な方向性を示しています。この理念は、渋沢栄一翁の「正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ」「仮に一個人のみ大富豪になっても、社会の多数がために貧困に陥るような事業であったらば、どんなものであろうか。如何にその人が富を積んでも、その幸福は継続されないではないか」という言葉に表される「道徳と経済の合一」の思想を具現化したものです。私たち YEG の活動は、経営者のため、企業のため、地域のため、という活動サイクルであり、この活動が、ひいては社会（日本）の永続へと繋がっていきます。

### 《使命》綱領・指針

令和6年度日本 YEG は、YEG 活動を思料する中、「綱領」は組織全体を導く活動ポリシーであり、「指針」は会員個人を導く活動ポリシーと定義しました。この使命は、私たちが「どのように活動するのか」という問いへの答えであり、日々の行動計画の骨格となると考えます。

### 《目標》ビジョン

理念と使命を理解した単会は理想像を掲げます。ビジョンは理想像へと進んでいく過程において、理想と現実のギャップから課題を抽出・共有し、解決するための手法です。YEG 活動に課題を感じた際は、ビジョンを掲げ課題解決に取り組み目標へと進むことが重要であると考えます。

## 《判断基準》 自発・道徳・合理

YEG の歴史の中には、経済や社会の変化と共に、様々な判断を行い、価値ある活動へと変化してきた歴史がありました。その判断の積み重ねは、思考の積み重ねであり、いつの時代も熱ある者に寄り添ってきた思考です。私たち YEG は、「自発・道徳・合理」の三つの判断基準を基に、理念の達成に向け、活動してまいります。

### ・自発について

「綱領・指針」策定時に行われたアンケート調査にて、すべての項目に「青年部は意欲的であるべき」との答えがありました。

※翔生（第六号）「青年部活動への提言」より

意欲的とはすなわち「自ら進んで積極的に行動する」という「自発」へと繋がります。YEG として取りまとめられた意識の原点として、また、現代社会における経営者資質に必須項目として求められるこの言葉は、青年部活動における必要な判断基準と考えます。

### ・道徳について

「利を図るということ、仁義道徳たる所の道理を重んずるという事は、並び立って相異なる程度において始めて国家は健全に発達し、個人はおのおのそのよろしきを得て富んで行く」という言葉があります。

※出典：渋沢栄一『論語と算盤』（国書刊行会 1985 年）

これは東京商工会議所の初代会頭である渋沢栄一翁の言葉です。

この言葉は、利己主義によらない経済活動と、経済活動の社会への還元を実践することで社会を豊かにし、結果として企業も発展していくことになる。という文章です。社会の持続を理念と考える私たちにとって「道徳を持った経済活動」は、青年部活動における必要な判断基準と考えます。

### ・合理について

「和而不同（わじふどう）」これは、孔子の論語に記載されており、自分の考えをしっかりと持ちながら、周りの人と同意のもとに良好な関係を築く。という意味です。

※翔生（第六号）「青年部活動の基本的な考え方」より

この言葉は、青年部活動の基本的な考え方として、「綱領・指針」策定時に語られた言葉です。全国それぞれの地域にそれぞれの商工会議所青年部活動があります。多様な活動に寄り添うべく「合理に基づく（道理や倫理にかなっている）」ことは、青年部活動における必要な判断基準と考えます。

この YEG 活動における考え方「思考の順序」に基づき、私たちは社会の持続可能な発展に貢献し、日本全体をより豊かな未来へ導くべく YEG 活動を推進してまいります。